



今年も始まるので「いただきます」

きよね

全国学校給食週間(令和5年度)

令和6年1月24日(水)～30日(火)

清須市学校給食センター

感謝の気持ちが伝えられるように



うるまるん

昭和20年8月に終わった第二次世界大戦。終戦後の日本は大変な食糧不足でしたが、学校給食はアメリカ合衆国のララ(アジア救済公認団体)の援助を受けて、昭和21年12月24日に東京都千代田区の小学校で再開され、その後全国の学校にも広まりました。この12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、昭和26年からは冬休みと重ならない1月24日から30日までの1週間で「全国学校給食週間」とし、学校給食についての意義や関心を高めることを目的に、全国各地で様々な行事が行われています。



学校給食に関わる人たち



みなさんが食べる給食は、多くの人々の力が合わさって作られています。どのお仕事をしている人も、毎日いろいろな工夫や努力をされていることでしょう。この機会に、給食に関わる人に「ありがとう」の気持ちを伝えてみてはどうでしょうか。直接伝えることができなくても、給食をできるだけ残さないように食べたり、食器をきれいに返すことなども感謝の気持ちを伝えることにつながります。

給食の「ありがとう」の環が広がると良いですね。

感謝の気持ちを込めて「いただきます」「ごちそうさま」が言えていますか？

「いただきます」とは…



食用として出された動植物の命、自然の恵みを粗末にしませんという気持ちが込められています。「いのち」をいただいて、「いのち」を守っているのです。

「ごちそうさま」とは…



「ご馳走さま」の「馳走」は、走りまわるという意味です。昔はお客様が来ると、家にはない食べ物を海や山まで探して準備をしなければなりませんでした。「ごちそうさま」とは、「私のために走りまわってくださってありがとう」という意味です。

清須市では、給食週間に郷土料理を提供する予定です。

郷土料理には、昔の人の「知恵」や「思い」がつまっています。昔の人が食べていた料理を、今の給食で食べられるなんて素敵ですね。歴史に思いを馳せながら、食べてみてくださいね。

献立を考える
栄養士さん



物資を運ぶ人



給食を作る
調理員さん

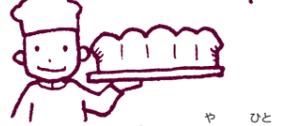


当番の人

食べ残しを整理する人



小麦を育てる人



パンを焼く人



牛を育てて牛乳をしぼる人

野菜や果物を作る人



工場加工する人



牛や豚やにわとりを育てる人

